歴史が生んだ教訓輝く

組合結成30周年迎え――――

強めよう、長期抵抗統一路線

組合結成30周年記念集会のポスターは、港務指導部の姉川良男さん制作のものです。12人の応募作品のなかから選ばれました。

この機に連帯の再確認を

三池労組は今、組合結成三十周年記念の祝賀の日を迎えようとしている。その日は十三日。全国から期待と希望の声がしだいに集中してき、そのなかで着々と祝賀準備がすすんでいる。

三池のたたかいの歴史が生んだ教訓は、たたかいがきびしく、はげしく、豊かであっただけに尊く、余りにも数多い。長期抵抗統一路線の思想のもつ重みが、深刻な政治的、経済的、社会的、文化的危機のなかでゆらいでいるわが国の現状下で、ひとしお人びとをとらえてゆく。それだけに三池の責任は重く、組合結成三十周年記念は組合員にとり改めて、これからたたかいすすむべき道をもう一度見きわめ直すよい機会となった。

新港地域分会では学習会

近ずく組合結成三十周年記念祝賀を前に、早くも全国各地からはよろこびの声が寄せられてきている。（別項の西川さんの詩）

もその一つ）

また総評の市川議長、炭労の里谷委員長といった人びとをはじめ参加の希望を表明してくる例がうちつづいている。

何としても、これらの人びとに「やっぱり三池にきてよかった」と受け取ってもらうことで、そのため祭典ほかの展示会などの諸行事の準備も、実行委員会を中心とした人びとの努力で見通しがついてきた。

なかでも注目すべきことは、三十周年記念の集会の日を前に行われた三川指導部の職場新聞祭や、宮浦指導部園芸部のさつき展など三十周年記念の意義をますます高くしていた。

特筆すべきことは、二十七日夜新港地域分会（池畑重信分会長）が行った「組合結成三十周年を迎えるための学習会」。

三十人近くの組合員が闘争本部に集まって、組合結成以来たたかってきた自分たちの過去をふりかえり、経験を出し合い、教訓を掘り起こし、そして今後どうたたかってゆくか、その展望を見きわめようというのであったと。

いろんな意見も飛び出して、改めて自分たち自身にとって三十年のたたかいとは何か、を考えざるを得なかった、との声がしきりだった。

こうした歩みを積みあげながらその日は、いよいよ近ずいてくる。

会場は市民会館に

組合結成記念集会をはじめ、闘争記念品、書画、写真、生花や盆栽展などの、すべての催しは、十三日市民会館で行なわれる。

なかには貴重な品も展示されることになっており、大きな期待が寄せられている。

みいけ
発行所
三池炭鉱労仂組合
大牟田市不知火町2
電話 ③3033番 ③3034番
編集兼発行人 山下 開
半年間1,000円 送料共

九・二八坑内火災裁判公判

九・二八坑内火災裁判の公判は五月二十六日福岡地裁で開廷。前回にひきつづき、この日も谷端前書記次長が、同火災被災CO患者一人ひとりについて、その症状と破壊された家庭生活の実状について、なまなましい証言を行ない、CO中毒の恐ろしさを焼きつけた。この日もCO患者、その家族をはじめ、組合員や遺族がかけつけて、証言に耳を傾けた。

三池労組結成三十周年記念を――むかえて

大阪　西川嘉一

※詩※

三池の組合が生れたとき
わたしはばたちの若者だった
それから三十年
わたしも年令を重ね
五十歳のおやじになった
わたしは三池の組合とともに
歳（トシ）をとった

わたしの人間の意識は
三池の組合の団結のなかで
三池のたたかいの歴史のなかで
改造された
わたしにとって
三池の組合とは何か
それはわたしの
たましいのすべて
心のすべてである
なま意気に聞えようが
わたしはこのように
総括している

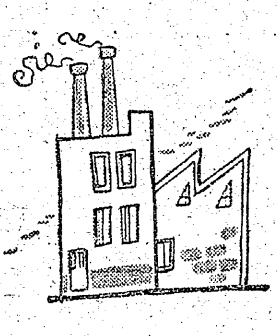
旧制の中学を出て
三池の事務所で働くようになったわたしは
ペンを持つものは
ツルハシをもつ人よりえらいのだ
かしこいのだと
思いつづけた

それから幾年か
三池のたたかいのなかで
わたしはおそまきながら
世のなかの仕組みと
支配する者の論理とを
知った

三池の組合はわたしに
科学的にものごとを考えること
みんなで討論すること
きめたことは守らなければならないことを
教えてくれた
なかでもいちばん大事なことは
自分のしあわせのために
隣人を踏み台にしてはならないこと
人間としての思いやりをもちつづけるべきこと
を
教えてくれた

三池
それは私にとってたましいのふるさと
心のふるさと
わたしは
幾つになっても
どこで生きてゆくにも
三池の組合の教えを
忘れることは
ない

×

いつもながら心暖まる詩をご投稿くださいまして、大変ありがとうございます。

西川さんはただ今、大阪府高槻市芝生町二丁目一四の四にお住まいになっています。ともに手をとりながら、これからも前進してゆきましょう。よろしくお願いします。